

データサイエンス分野の発展に向け、帝国データバンクと滋賀大学が 連携協力の協定を締結

株式会社帝国データバンク（本社：東京都港区、代表取締役社長 後藤信夫、以下 TDB）と国立大学法人滋賀大学（本部：滋賀県彦根市、学長 位田隆一、以下滋賀大学）は、2017 年 11 月 30 日に連携協力の協定を締結したことを発表いたします。

この連携協定は、ビッグデータの加工を行うデータエンジニアの育成による、データサイエンス分野の発展が目的です。具体的には、教育体系の構築、教材開発、教育に係る集中講義の実施を目指しています。

技術の進歩や産業の高度化によって、全世界で取り扱われるデータは急増しつつあり、そのデータ量は 2020 年までに 40 ゼタバイトに到達すると言われています。そのようなビッグデータ時代において、解析や分析スキルは非常に重要となりますが、その前の工程である、存在するデータの「構造的な整理」＝データの「研磨」には、これまで脚光が集まっていませんでした。

しかし今、データ量の増大化・複雑化に伴い、データ「研磨」の重要性が増しています。データごとに構造が異なることや、同じ構造でも複数データベースから成り立つものがあることなどから、高精度な分析結果を得るには、まずデータ構造を整理する必要があるためです。

一方で、データの「研磨」は教育現場でもあまり学ばれてこず、個人の自主学習に委ねられてきました。その結果、分析現場におけるデータの「研磨」習熟度は、個々人においてバラツキがある現状であり、データ分析精度を高めるための教育研究充実化は急務となっています。

こうした状況に対応するために、滋賀大学と TDB は今回、連携協定を締結しました。

滋賀大学では、2017 年 4 月、国内初のデータサイエンス学部を開設し、日本に不足するデータサイエンス人材育成のカリキュラムを提供しています。

一方の TDB では、2015 年 4 月に公開された地域経済分析システム（RESAS）において、公開に先んじて 2014 年以降、官民様々なデータの「研磨」を行ってきた実績があります。滋賀大学のカリキュラムに、TDB の実績・ノウハウを提供することで、従来体系化されていなかったデータ「研磨」の体系化を目指します。そして、データエンジニア・データサイエンティストの育成を実施することで、データ分析を活用した社会の発展へ貢献していきます。

【会社概要】

■株式会社帝国データバンク

創業：1900年3月3日 URL：<http://www.tdb.co.jp>

所在地：107-8680 東京都港区南青山 2-5-20

売上高：513億円（2017年9月期）

事業内容：企業信用調査をベースとした与信管理支援・マーケティング支援

■国立大学法人滋賀大学

設置：1949年5月31日 URL：<http://www.shiga-u.ac.jp/>

所在地：522-8522 滋賀県彦根市馬場 1 丁目 1-1

設置学部：教育学部、経済学部、データサイエンス学部

【お問い合わせ先】

株式会社帝国データバンク

担当：産業調査部 先端データ分析サービス課 北村・大里

TEL:03-5775-1092（部門代表） FAX:03-5775-3168（部門代表）

滋賀大学

担当：経済学部・データサイエンス学部共通事務部 安田

TEL:0749-27-1045 FAX:0749-27-1132